【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	小城市立砥川小学校

1　前年度 評価結果の概要	○県の学習状況調査結果は厳しいものであった。調査結果の分析と日常の授業での気付きをもとに、知識・技能の着実な定着と主体的な学びを育む指導法改善に向けて、校内研究会を中心に取り組みを進めていく。また、家庭でのインターネットの使用時間が長かったり、夜遅くまで使用している子どももおり、自宅学習や学校での学習に集中できない状況も見られる。保護者と連携して、適切な使用と生活習慣や学習習慣の定着を図っていく。 ○学校での生活と学習の基盤となる落ち着いた、誰もが安心できる学級づくりに向けて、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実に努めていく。 ○学校教育の充実には、教職員が心身共に健康で子ども達と向き合うことが必要である。そのために、業務の効率化や簡素化等から働き方改革を推進していく。
2　学校教育目標	**夢と志をもち、自ら学び、共によりよく生きようとする砥川っ子の育成 ～「勤倹力行」の砥川魂を受け継ごう～**
3　本年度の重点目標	**「一心一徳」「異体同心」で□魅力的で笑顔に満ちた児童を育てる　○魅力的で活気に満ちた教師になる　○魅力的で家庭や地域に愛される学校になる**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・職員がマイプランを共有し、共通理解をして学習指導に取り組むことで佐賀県の学習状況調査に結びついた。 ・4～6年生で実施された佐賀県の学習状況調査結果では、国語科・算数科共におおむね達成がほぼできた。分析を行い、全職員が、それぞれに自らの指導の改善として取り組み、次年度につなげ学力向上に努めたい。	B	・鉛筆が正しく持てていない児童がいるようだ。小さい頃から発達段階に応じて指導していく必要がある。 ・話し合う学習では、学級の人数がちょうどいい。	教務・研究主任
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「ゴール像が明確で、めあて、まとめ、振り返りができていると思う」と回答した児童75%以上	・めあてとまとめ、振り返りの授業を徹底し、児童による授業評価を学期に1回実施する。	B	・校内研究を含めて、「めあて・学び・まとめ・ふりかえり」の学習過程に取り組んだ。自分の考えをもつことができたと答えた児童は77%であった。 ・学年ごとに教科ごとの用語を掲示し、振り返り等に取り組んだ。用語等については理解してきている。使いこなしているところもまだある。	B	・各学級の掲示物が整理されており、自主学習ノートの取組を見たが、細かく指導がなされていた。授業を分かりやすくしたいという先生方の意欲が伝わってきた。	教務主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○思いやりのある行動や言動ができていると答える児童が80%以上	・人権教育に関する講話や集会を定期的に実施し、自分の行動や言動について考えさせる機会をもつことで啓蒙を図る。	B	・全職員で計画通りに人教室を行うことができ、思いやりのある行動をとれたと答えた児童は、82%と思いやりの心が育っている。言葉遣いについては、友達に「くん・さん」をつけて呼ぶについては、54.7%と意識が低く、今後の指導をさらに継続していきたい。	B	・思いやりを育むうえで、「さん」をつけて呼ぶことは大切だ。家庭教育との連携も必要だが、先生方の反応が大切だと感じた。リアルタイムで指導して欲しい。	特別活動部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○アンケートにおいて、学校が安全で楽しいと答えた児童が80%以上	・心のアンケートを定期的にとり、気になる児童への観察と言葉かけを行って、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・SCとの面談の働きかけを行う。	B	・9月の心のアンケートでは、86%の児童が「楽しい」と回答し、数値目標を達成した。 ・SCによる人との関わり方の授業を実施したり、面談を継続して取り組んだ。	B	・引き続き、いじめ0を目指して、全職員でしっかりと取り組んで欲しい。12月に比べ学校が落ち着いてきているが、あいさつの声が小さく、言葉遣いが気になる。学校での指導だけでなく、家庭での教育、保護者の声掛けをお願いしたい。	生徒指導部
●健康・体つくり	❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ❹「安全に関する資質・能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童100%の継続 ・朝食摂取率86%以上 ・「まごわやさしい」認知度50%以上 ○児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・朝食摂取率の上昇と望ましい朝食への変化に向けて、朝食実態調査を6月と11月に行い、集会及び家庭科や学級活動等で栄養教諭とTTで取り組む。家庭と連携して効果を上げるために学級通信や広報で啓蒙を図る。給食で「まごわやさしい」献立を実施する。 ・交通事故防止の児童への講話等を年2回行う。	B	・5年生へのアンケートで、「食事は健康において大切である」100%→前年度から継続できた。朝食摂取率は90%、「まごわやさしい」の認知度は95%達成できた。 ・学校評価アンケートでも朝食を毎日食べている児童が92.7%と、前年度と同水準まで上がった。 ・交通安全については、長期休みの前などに継続して指導している。	B	・食事の大切さや摂取率が継続できていることはよいと思う。箸の持ち方を含めた食事のマナー、栄養バランス、おやつの与え方等、家庭とも連携しながら指導を行って欲しい。 ・情報社会の中で、児童の性教育はどうなっているか気になっている。本来は家庭教育できちんと教えるべきだが、学校教育に期待をしている。 ・今後も、健康を維持しながら学力の向上につなげていってほしい。	健康・安全部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○長期休業中の時間外勤務は30時間を超える職員を0%にする。	・毎週金曜日を定時退勤日を設定し、実行を促す。 ・毎月業務記録を把握し、職員が共有することで、業務改善への意識の向上を図る。 ・行事や会議を削減、凝縮し、業務の効率化に取り組む。 ・家庭や地域に対し、教員が本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。	B	・12月の期間外勤務は、昨年度33.5時間から今年度23.4時間と縮減することができた。長期休業中の30時間を超える職員を0%だった。 ・「業務の効率化に向けて、データの蓄積、共有化を図ることができた」職員が81.7%（昨年度より＋5%）であった。 ・「時間外勤務の縮減を意識している」職員は、69.7%（昨年度＋3%）であった。今後もさらに行事の精選や職員の意識改革を図っていきたい。	B	・教職員の元気が学校教育の基盤となる。教職員の仕事は限りがないが、子どもちのために働き方改革を進めて欲しい。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実と拡散	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・個別の指導計画及び特別な教育課程の詳細な立案。 ・全職員で児童の情報共有と指導の方向性の確認を行う。 ・7月末に職員研修を実施し、インクルーシブ教育の視点で通常学級の個別の支援を学ぶ機会を設ける。	A	・職員アンケートでは、すべての職員が児童の特性に配慮した支援（達成ポイントは81．3%）ができていると答えていた。 ・支援の必要な児童の個別の支援計画・指導計画の前期・後期ごとの振り返りができている。	B	・特別支援教育に関する研修会を開かれていることは必要なことだ。今後も継続して職員が専門的な研修を受ける必要がある。	特別支援教育担当
○地域連携による共育	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）70%以上	・地域連携室との連携により、児童が生き生きと学習できる環境を構築する. ・児童が地域の方に感謝する機会を設ける。 ・キャリアパスポートに自己目標の設定と振り返りを行わせ、他己評価も活用して意欲を高めていく。	A	・地域連携室との連携により、算数検定や読み聞かせ、ミシン実習のサポートを依頼し、児童が生き生きと学習できる環境を構築することができた。また、特別非常勤講師を招聘し、田植えや稲刈り、手話、和楽器演奏などを体験できる環境を整えることもできた。 ・「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）は85%以上であった。	A	・地域の人たちなどからの賞賛は、児童を認め、励ます好機となる。今後も是非継続して欲しい。来年度は、PTAの活動も少しずつ入れていき、児童が楽しみにしている行事を実施して欲しい。	教頭・教務

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・県の学習状況調査結果の分析と日常の授業での気付きをもとに、知識・技能の着実な定着と主体的な学びを育む指導法の改善に向けて、校内研究を中心に取組を進めていく。 ・学校での生活と学習の基盤となる落ち着いた、誰もが安心できる学級づくりに向けて、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実に努めていく。 ・学校教育の充実には、教職員が心身共に健康で児童に向き合うことが必要である。そのために、さらに業務の効率化や簡素化等から働き方改革を推進していく。